

第3学年 国語科学習指導案

児童 3年1組 男子16名 女子13名
指導者 榊 綾子

1 単元名 民話のおもしろさをポップで伝えよう

2 学習材名

中心学習材 「三年とうげ」(光村図書3年下)

補助学習材 「とらとほしがき」(光村教育出版)「世界の民話」絵本各種

3 単元を貫く言語活動とその特徴

民話のおもしろさを、観点に沿って想像しながら読み、ポップで伝えること

本単元を貫く言語活動として「民話のおもしろさを、観点に沿って想像しながら読み、ポップで伝えること」を位置付けた。民話を「話の展開」「登場人物の魅力(登場人物の性格や気持ちの変化)」「印象的な表現」のおもしろさの観点で読み進める。自分なりの話のおもしろさが表れる観点を選んだり、観点を関連させたりしてポップにまとめる。ポップの構成要素は、「タイトル」「引用文」「お薦めしたい人」「本への評価」である。自分なりのおもしろさと関連する叙述を「引用文」として書く。引用文の叙述から想像したことや感じ考えたことを話のおもしろさとして「タイトル」「お薦めしたい人」「本への評価」を書く。「タイトル」「お薦めしたい人」「本への評価」は、25字以内の制限字数の中で、効果的な言葉を用いるようにする。完成したポップを使って交流し、さらに話のおもしろさを味わう。「とらとほしがき」のポップを図書室や各教室に本と共に掲示し、全校のみんなに読んでもらうという目的意識をもたせる。「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」(C読むことウ)の実現に結び付くと考えた。

4 単元について

(1) 児童について

児童は、2年生で「黄色いバケツ」で、「好きなところを紹介すること」の言語活動を通して、楽しむために本を選んで読むこと、「スーホの白い馬」で、「あらすじをとらえ、物語を紹介すること」の言語活動を通して、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことを学んだ。

3年生になって、「海をかつばせ」では、「主人公紹介カードを書くこと」の言語活動を通して、主人公の性格を叙述を基に想像し、一人一人の感じ方の違いに気付くこと、「いろはにほへと」では、「お薦めの本を紹介すること」の言語活動を通して、目的に応じて、いろいろな本を選んで読むことを学んだ。

これらの学習を通して、目的に合わせて叙述に着目することができるようになってきている。しかし、場面とともに変化する登場人物の気持ちについて、地の文や行動、会話などから関連的にとらえることについては、指導していく必要がある。

(2) 指導について

中心学習材「三年とうげ」は、「起承転結」の組み立てを理解するのに適した学習材である。場面がテンポよく展開し、登場人物の性格や気持ちの変化もはっきりと描かれている。また、調子のよい言い伝えの言葉や話の終末部に出てくる歌を楽しみながら読むことができる。

補助学習材は「とらとほしがき」も、「起承転結」の組み立てがはっきりしている学習材である。話の展開とともに、登場人物の気持ちの変化が鮮明に描かれている。とらの変容にもおもしろさがある。「アイゴ」という独特な言葉も特徴的である。話のおもしろさの三つの観点に沿って読み進めることができる学習材である。

単元を通して、次の三つを大切にしていきたい。

一つ目は、「自分なりの話のおもしろさに気付くこと」である。「見通す」段階で、「とらとほしがき」のポップを図書室や各教室に本と共に掲示し、全校のみんなに読んでもらうという目的意識をもたせる。民話を

「話の展開」「登場人物の魅力（登場人物の性格や気持ちの変化）」「印象的な表現」の観点で読み進め、自分なりの話のおもしろさに気付くことができるようにする。その後、自分なりの話のおもしろさが表れる観点を選んだり、観点を関連させたりしてポップにまとめる。中心・補助学習材だけではなく、世界の民話の絵本の並行読書の多読も通して、民話のおもしろさを味わわせたい。

二つ目は、「ポップ作りを通して、叙述を基に話の展開に気を付けながら読み、登場人物の性格や気持ちの変化を想像すること」である。これは、児童の実態から、力を引き上げる必要がある学習内容である。ポップの構成要素は、「タイトル」「引用文」「お薦めしたい人」「本への評価」である。自分なりのおもしろさと関連する叙述を「引用文」として書く。「引用文」として書き抜いた叙述の語句に着目したり、叙述を関連付けたりして想像を広げさせたい。場面とともに変化する登場人物の気持ちについては、地の文や行動、会話などから関連的にとらえることができるようにする。そのために、自分を取り巻く現実や経験と照らし合わせて物語の世界を豊かにかつ具体的に感じ取ったり、そこから感じ取った感想や感動を大切にしたりする指導をねらいたい。また、想像したことや感じ考えたことを話のおもしろさとして「タイトル」「お薦めしたい人」「本への評価」を書く。これらは、25字以内の制限字数の中で、効果的な言葉を用いるようにする。

三つ目は、「ポップを使って、話のおもしろさを交流すること」である。グループや全体での交流を通して、新たなおもしろさの気付きを交流する。グループ交流では、ポップを使って話のおもしろさを交流し、代表ポップを決める。その後、全体交流では、ポップを読み合い、話のおもしろさを味わい、新たなおもしろさやおもしろさが人それぞれ違うことに気付くことができるようにする。

本時は、「とらとほしがき」のおもしろさを、グループ交流後に、全体でポップを読み合う。共通点や相違点に着目させながら、話のおもしろさの新たな気付きを交流し、おもしろさが人それぞれ違うことに気付かせることをねらいたい。

5 単元の指導目標

- 民話のおもしろさをポップで伝えるために、進んで民話を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ◎自分なりの話のおもしろさを、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むことができる。 (読むことウ)
- 話のおもしろさの理由を明らかにし、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。 (読むことオ)
- 表現したり理解したりするために必要な文字や語句を増すことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ))

6 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語文化についての 知識・理解・技能
おおむね達成できる状況	民話のおもしろさをポップで伝えるために、話を繰り返して読み、改めて味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読もうとしている。	◎自分なりの話のおもしろさを伝えるために、場面の移り変わりや登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を関連付けたり、語句に着目したりして想像して読んでいる。 ○想像したこと、感じ考えたことを関連付けて、おもしろさの理由を明らかにし、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。	表現したり理解したりするために必要な文字や語句を増している。

7 単元の学習計画及び評価計画（読むこと 9時間）

段階	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
見 通 す	1	1 単元の目あて、言語活動をつかみ、学習計画を立てる。	○ポップのモデルを提示し、以下のことをつかませる。 ・構成要素… 「タイトル」「引用文」「お薦めしたい人」「本への評価」 ・読みの観点… 「話の展開」「登場人物の魅力」「印象的な表現」 ○単元の課題を確認し、学習計画を立てる。	関 —民話を読み、話のおもしろさをポップで伝えることに興味をもち、進んで民話を読もうとしている。 (発言、ワークシート)
		民話のおもしろさを、三つの観点で想像しながら読み、ポップで伝えよう。 ○「三年とうげ」を読むこと ○民話を読むこと		
深 め る	2	2 「三年とうげ」の「話の展開」のおもしろさを読む。	○「話の展開」のおもしろさについて、話の始まりと終わりを比べ、その間の事件発生、事件の変化をつかみ、小見出しをつける。 ○自分なりの話のおもしろさと関連する「起承転結」部分、引用文を選び、叙述に着目し、想像したこと、感じ考えたことをまとめる。	関 —中心学習材を、観点に沿って進んで読もうとしている。(発言、ワークシート) 読 —場面の移り変わりや登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を関連付けたり、語句に着目したりして想像して読んでいる。(発言、ワークシート)
		3 「登場人物の魅力」のおもしろさを読む。	○「登場人物の魅力」のおもしろさについて、「キャラクター分析表」を用いて、人物像をつかむ。 ○人物の変容が表れている叙述に着目し、想像したこと、感じ考えたことをまとめる。	
	4	4 「印象的な表現」のおもしろさを読む。	○「印象的な表現」のおもしろさについて、「繰り返し」「独特な表現」「教え」に関連する叙述に着目し、想像したこと、感じ考えたことをまとめる。	読 —想像したこと、感じ考えたことを関連させ、おもしろさの理由を明らかにし、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。 (発言、ワークシート)
		5 話のおもしろさをポップにまとめる。	○自分なりの話のおもしろさが表れる観点を選んだり、観点を関連させたりして、「タイトル」「引用文」「お薦めしたい人」「本への評価」の要素でポップにまとめる。	
	6	6 話のおもしろさを交流する。	○ポップを読み合い、想像したこと、感じ考えたことを交流して、話のおもしろさを味わう。	言 —表現したり理解したりするために必要な文字や語句を増して話を読んだり、ポップにまとめている。 (発言、ポップ)
	広 げ る	7	7 「とらとほしがき」を三つの観点で読む。	○補助学習材「とらとほしがき」を、「深める」段階の学習を生かして、個で三つの観点について読む。
8 話のおもしろさをポップにまとめる。			○自分なりの話のおもしろさがポップに表れる観点を選んだり、観点を関連させたりして、ポップにまとめる。	
9 本 時		9 ポップを読み、話のおもしろさを交流する。	○グループで、ポップを使って話のおもしろさを交流し、代表ポップを決める。その後、全体でポップを読み合い、共通点や相違点に着目させ、話のおもしろさを味わう。	読 —おもしろさの理由を明らかにし、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。 (発言、ワークシート)
課 外		○「とらとほしがき」のポップを、図書室や各学年の教室に、本と共に掲示する。		

8 本時の学習(9/9)

(1) 目標 「とらとほしがき」の話のおもしろさを、ポップを使って、想像したことや感じ考えたことを交流し、さらに話のおもしろさを味わうことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容 (◎主発問)	指導と評価のための工夫
導入 2	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題、学習の流れを確認する。	○自分なりの話のおもしろさが表れる観点を選んだり、観点を関連させたりして、ポップにまとめたことを想起すること 話のおもしろさを、ポップで交流しよう。	・ポップを使って交流して、さらに話のおもしろさを読む学習であることを確認する。
展開 33	3 グループで、話のおもしろさを交流する。 ○ポップを使って、想像したことや感じ考えたことを交流すること 4 全体で、代表ポップを発表する。 5 ポップの共通点や相違点、話のおもしろさを交流する。	◎話のおもしろさを味わうために、ポップを使って交流し、代表ポップを決めましょう。 1 ポップアピールコーナー <1分×3人> ○「タイトル」「引用文」「お薦めしたい人」「本への評価」を読み、「引用文」の叙述から想像したこと、感じ考えたことを、話のおもしろさとして説明すること 2 話のおもしろさ交流コーナー <5分> ○自分の話のおもしろさと比べながら、交流すること 3 グループの代表ポップを決める<3分> ○話のおもしろさが表れているポップを選び、その理由を話すこと ◎9枚のポップの共通点や違う点、新たに気付いた話のおもしろさを発表しましょう。 ○代表者が書いたポップの相違点に着目し、新たな話のおもしろさを考えながら、聞くこと ○共通点や相違点に着目しながら、新たに気付いた話のおもしろさを交流すること 例 新たに気付いた話のおもしろさ ・動物の「とら」と、食べ物の「ほしがき」をくらべている、こっけいさ。 ・とらは、本当は「ほしがき」は食べ物だと知っていたのではないのか。 ・「アイゴ」という言葉が、人物の様子とうまくあっていて、こうかてき。 ○一人一人の感じ方の違いについて、感想をもつこと	・ポップの発表者は、想像したこと、感じ考えたことが伝わるように、付箋紙メモを見ながら、説明してよいこととする。 ・聞く側は、自分の話のおもしろさと比べながら、聞くようにする。 ・ポップの「引用文」発表では、既習を生かして、場面や人物の様子が表れるように工夫して音読をさせる。 ＜評価規準＞ 複数のポップの「タイトル」「引用文」「お薦めしたい人」「本への評価」から、共通点や相違点に着目しながら、さらに話のおもしろさに気付いている。 (抽出児の発言)
終末 10	6 本時の学習をまとめ、単元の学びを振り返る。	○「新たに気付いた話のおもしろさ」をまとめ、「単元で身に付けた力」について振り返ること	・まとめと振り返りに書く視点を確認する。

(3) 板書計画

民話のおもしろさをポップで伝えよう

とらとほしがき パク・ジエヒョン

話のおもしろさを、ポップで交流しよう。

話のおもしろさ

- 「話のてんかい」
- 「登場人物のみりよく」
- 「いんしょう的な表げん」

「学習の流れ」

一、グループで、話のおもしろさを交流し、代表ポップを決める。

1 「ポップアピール」コーナー

2 「話のおもしろさ」交流コーナー

・自分の「話のおもしろさ」とくらべながら、交流する。

3 「代表ポップ決定」コーナー

・「選んだポップと理由」を話す。

二、全体で「話のおもしろさ」を交流する。

ポップ 1	ポップ 2	ポップ 3
ポップ 4	ポップ 5	ポップ 6
ポップ 7	ポップ 8	ポップ 9

話のおもしろさ

- 動物の「とら」と、食べ物「ほしがき」をくらべるこつけいき。
- とらは、本当は「ほしがき」は食べ物だと知っていたのではないのか。
- 「アイゴ」という言葉が、人物の様子とうまくあっているのか。

三、ふりかえり